

経緯度研究会はもう発足から30年近く、衛星測地のそれも15年近くの歴史を積み重ね、位置天文学関係の研究者にとっては、なくてはならぬ研究会として発展しつつあることは、まことに喜ばしいことである。

(関口直甫)

**星：銀河系の構成単位**

上記の題名の研究会が昨年12月14日に東京天文台で催された。Be星、惑星状星雲、球状星団、赤外線による観測、低温度星の空間分布、ファブリー・ペロー、スペックル等多種多様な報告があり、星の世界の広さを改めて感じさせられた。最近の星の関係の研究会は特殊な話題を取り上げることが多かったが、このように一般的な題目でやる必要もある。会の終りに望遠鏡についての意見交換が行われた。出席者は約30名であった。

(成相恭二)

.....  
**書 評**  
.....

**Illustrated Glossary for Solar and Solar-Terrestrial Physics**  
**—Astrophysics and Space Science Library, Vol. 69—**

(太陽物理学及び太陽地球物理学の用語事典)

A. Bruzek and J. Durrant 編

(D. Deidel Publishing Company, Dordrecht, 1977年, B5版, 204頁)

本書は、太陽、惑星間空間、地球上層大気等の研究分野で使用されている英語の学術用語を、写真や図を入れて、英文で解説した事典である。地上の観測手段がここ十数年の間に飛躍的に向上したことで、地球の大圏外からX線、極紫外線、赤外線を使って観測が行なわれるよ

うになったことによって、新しい現象がつぎつぎと見出され、それを理解しようとした新しい考え方が提案され、それらに対して新用語がつけられてきた。しかし、これらの用語の普及が研究の進歩に較べておくれがちであったことにより、研究者の間で情報の伝達に齟齬をきたす恐れがあり、それをくみとった故キーペンホイヤー(ドイツ・フライブルグの前台長)は、5年程前に、標準的な用語集を作ろうと提案し、それが基になって、この本の誕生となったものである。

全体は、太陽内部、太陽活動周期、磁場、光球・彩層、彩層・コロナの境界領域、コロナ、活動領域、黒点・白斑、フレア、紅炎、太陽電波、理論、太陽風・惑星間空間、太陽地球物理、の14の大項目に分けられていて、各々の項目に属する10乃至40の用語が、適切な写真や図を用いて研究者・学生向けに解説されている。14名の執筆者が、単独に、または2名が共同して一つの大項目に属する用語を受けもち、互に関連させつつ、現象論的に、また定量的に、簡潔な記述を行なっている。更に各用語には、入手し易さを旨として選ばれたreferencesがつけられているので、詳しく知りたい人に役立つ。

この本は、用語の使い方を律するというものではなく、現時点で理解しているところまでを書かれたものである。いわば現状のレベルを表わす本があり、今日以後いつでも批判を受け、修正されうべきものであろう。太陽物理学に関連した本の中で不明な用語にぶつかった時に、この本を見て用語の概要をうかがうのには便利な本である。

(日江井栄二郎)

**訃 報**

本会名誉会員、東京大学名誉教授、萩原雄祐先生は1979年1月29日、81歳で逝去されました。謹んで御冥福をお祈りすると共に会員諸氏におしらせ申し上げます。

**1978年12月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)**

1	9,	77	6	9,	105	11	10,	145	16	12,	134	21	8,	52	26	8,	49
2	7,	68	7	12,	112	12	11,	160	17	13,	150	22	9,	40	27	—,	—
3	—,	—	8	10,	108	13	11,	197	18	—,	—	23	—,	—	28	—,	—
4	8,	95	9	11,	121	14	11,	184	19	—,	—	24	10,	28	29	12,	111
5	8,	94	10	—,	—	15	10,	115	20	10,	59	25	9,	51	30	12,	149
															31	11,	142

(相対数月平均値: 148.7)

昭和54年2月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹31局(0422-31)1359	振替口座 東京 6-13592